

幼児教育における SDGs への取り組み

2024年7月16日、インドネシアのバンドンにて行われた浅利教育学園グループと包括提携契約を結んでいるサンガブアナ大学主催の国際会議 (ICoBAC) に本グループ理事長の浅利健自が出席し、「幼児教育におけるコミュニケーション科学と経営学の視点から見た SDGs へのアプローチ」について講話いたしました。



教育方針に基づいた取り組み

当グループでは教育方針「あ！そう！ぼっ！」に基づき、主体的で感性豊かな子どもの育成をビジョンとし、しなやかにたくましく「新しい生きる力」を備えた人材を社会に送り出すことをミッションとしています。この教育方針をもとに、日頃の園での取り組みがどのように SDGs の達成に貢献できているのかについて講話いたしました。また、少子化が進む中での教育の在り方や世界的な問題にもなっているフードロスや教員不足についての現状、今後の解決策についても言及しています。

子どもたちは幼少期からまわりの大人たちを見て子どもたち自身が学び、習慣にし、教わったことをどんどん身に着けていきます。そのことから幼児教育は重要であり、教育・環境への投資が人材の育成・SDGs の達成への貢献にも繋がると考えています。



子どもたちが日頃からお菓子の箱や段ボールを再利用し工夫したおもちゃ作りを楽しむ様子や5歳児が園生活の中でゴミの分別をしていることも紹介しました。

(左図：パワーポイントの一部抜粋)

今後に向けて

SDGs の達成には、ひとりひとりが日々の行動を通じて変化を起こすことが重要です。幼児教育の中でできることは持続可能な未来を築くための「基盤」を育むことです。大人は子どもたちに環境を守ることがいかに大事なのか、そしてそれを維持するのがいかに大変なのかを子どもたちと話し、前向きにとらえていくことが重要だと考えます。園生活は子どもたちにとって初めて経験する小さな社会です。さまざまな経験を通して自ら考え工夫することや人とのコミュニケーションについて多くのことを学んでいきます。大人が子どもたちと共に学び、伝え、それを手助けすることで、将来自ら考え、行動していける力が育てられていくと信じています。